

平成28年度ADフォーラム

(一社)日本レストルーム工業会 UD部会 活動報告

2016.12.9(金)
(一社)日本レストルーム工業会
ユニバーサルデザイン部会

部会長 長谷 寛(TOTO株)

1. (一社)日本レストルーム工業会組織概要①

(一社)日本レストルーム工業会は、2015(平成27)年4月より、
(一社)日本衛生設備機器工業会と(一社)温水洗浄便座工業会 が合併し、トイレ・洗面室等、水まわりに
かかわる設備機器を対象とした事業を実施する組織に再編し新たにスタートしました。

■設立経緯

- 1948年(昭23) 11月 「日本衛生陶器工業協会」として設立
- 1964年(昭39) 7月 「日本衛生陶器工業組合」に改組
- 1985年(昭60) 6月 「日本衛生設備機器工業会」に改組
- 2012年(平24) 4月 「一般社団法人 日本衛生設備機器工業会」
- 2015年(平27) 4月 「一般社団法人 日本レストルーム工業会」発足

■目的

衛生設備器機器(衛生器具、温水洗浄便座、暖房便座、衛生器具付属金具等)産業の振興に
関する共通的な施策を推進することにより、その健全な発展を図るとともに、国民の住生活の向上
とわが国 経済の伸長に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

■事業

- (1) 衛生設備機器の生産、流通、消費及び貿易の振興に関する対策の確立及びその推進
- (2) 衛生設備機器の普及及び各種啓発に関する諸対策の推進
- (3) 衛生設備機器に関する各種規格、基準等の策定及び関連事業の推進
- (4) 衛生設備機器の維持管理に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (5) 衛生設備機器の環境に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (6) 衛生設備機器の製品安全に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (7) 衛生設備機器に関する関係官庁、関係機関等に対する意見具申及び答申
- (8) 前各号に掲げるもののほか、当法人の目的を達成するために必要な事業

1. (一社)日本レストルーム工業会組織概要② JSEIA SANITARY EQUIPMENT INDUSTRY ASSOCIATION

■会員(9社)

- ・アイシン精機株式会社
- ・アサヒ衛陶株式会社
- ・株式会社三栄水栓製作所
- ・ジャニス工業株式会社
- ・東芝ライフスタイル株式会社
- ・TOTO株式会社
- ・株式会社ハウステック
- ・パナソニック株式会社
- ・株式会社LIXIL

■理念・ビジョン

業界が持続的に成長し高品質で安全安心な製品を提供し続けることによってお客様とのさらなる良好な関係を築いてまいります。

理念

レストルーム業界の持続的な発展を通じて、世界中の人たちの生活文化向上に貢献します。

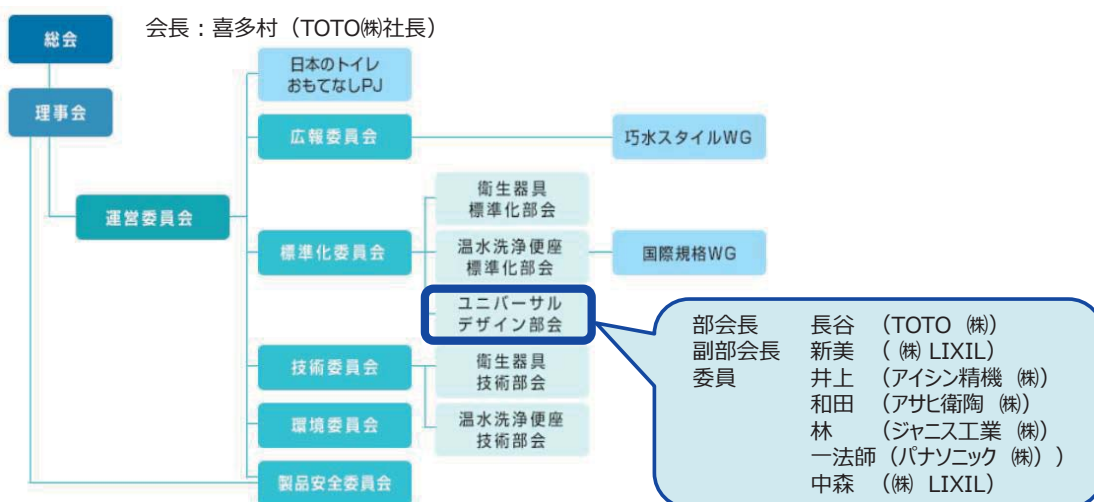
ビジョン

世界中の人たちに、安全で使いやすく環境にやさしい快適なレストルーム空間を提供します。そのために、

1. <安全・安心> 製品の安全性をさらに向上させ、適切な使用方法を広めます。
2. <環境貢献> 地球温暖化をはじめとする環境問題解決のため、地球にやさしいモノづくりを目指します。
3. <国際貢献> 製品の国際標準化を進め、海外でのさらなる普及を図ります。

1. (一社)日本レストルーム工業会組織概要③ JSEIA SANITARY EQUIPMENT INDUSTRY ASSOCIATION

■組織概要・組織図 平成28年度委員会



標準化委員会	衛生器具標準化部会	衛生器具（大便器等）に関わる国内および国際標準化を推進する。
	温水洗浄便座標準化部会	温水洗浄便座等に関わる国内および国際標準化を推進する。
	ユニバーサルデザイン部会	ユニバーサルデザインに関する国内外の標準化を推進すると共に、諸課題解決を推進する。

2. 2016年度の活動

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1) UDに係る標準化への取組み

- ① ISO/TC173/SC7/WG3・WG6(トイレ・音案内)検討委員会への委員参加
- ② ISO/TC159国内検討WG(報知光・音声案内・入力操作部ほか)への委員参加
- ③ 福祉用具-手すりJIS化(固定形・留置き形)へのレストルーム空間視点での提言(非委員)

(2) 「BF法ガイドライン改訂(17年3月)」における取組み

- ① 「UD2020関係府省等連絡会議」「建築設計標準改訂委員会」を傍聴しながらの、改訂情報収集および共有化・早期課題出しによる国交省への提言活動

(3) 住宅・パブリックのトイレ空間のUD化に関する提案

- ① 住宅・パブリックトイレに関するUD視点での新しい価値につき、ホームページを活用した情報発信。

2. 2016年度の活動

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1) UDに係る標準化への取組み


- ③ 福祉用具-手すりJIS化(固定形・留置き形)へのレストルーム空間視点での提言(非委員)

ISO規格 17966 2016年施行

Assistive products for personal hygiene that support users
Requirements and test methods

経済産業省・高機能JIS等整備事業
「固定形手すり等に関するJIS開発」
として日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)が受託

「固定形手すり」と「留置き形手すり」の2種類の分科会に分けて、
2015年度より手すりのJIS規格化を検討中。
16年度中に原案作成完了の見込み

	ISO	(BL基準)	
握り径	Φ 25 ~ Φ 45	Φ 30 ~ Φ 40	
壁と製品の隙間 	35mm~ ※さらに、以下等に配慮 ・大人の頭挟まれ 120mm未満、 または250mm以上 ・子供の頭挟まれ 60mm未満、 または250mm以上	30~50mm	
製品の隙間	閉じた空間 	—	—
	開いた空間 	—	—

「壁と製品の隙間」の基準値はISO規定をより厳しく、さらに「製品の隙間」をJIS独自に規定の考え。

⇒ 「手すり単体」だけの議論が中心。使用空間の使い勝手の議論が必要

参考：空間構成寸法の議論の必要性

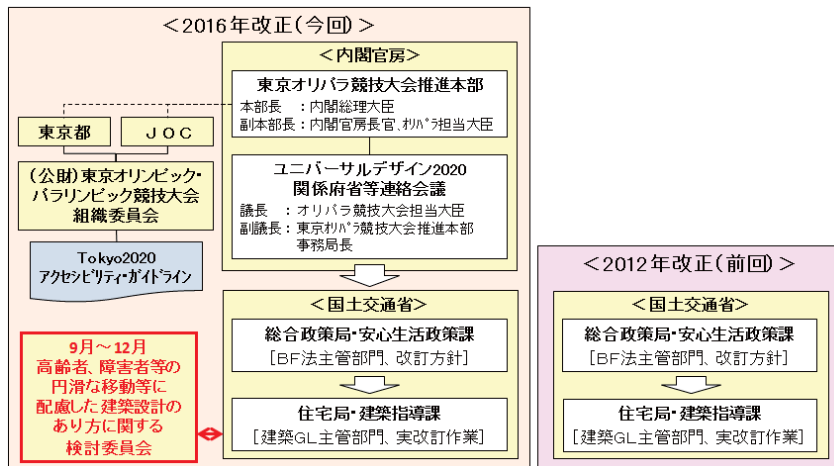


使い勝手を踏まえた議論の必要性をレストルーム工業会から経済産業省へ相談。寸法基準を検討委員会の場で議論することとなった。

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(2)「BF法ガイドライン改訂」(2017年3月)における取り組み

- ①「UD2020連携会議」「建築設計標準」改訂委員会傍聴しながらの、
改訂情報収集および共有化・早期課題出しによる国交省への提言活動



今回のガイドライン改正では、オリパラ施策を中心に政府から、国土交通省に当事者意見を含めて、方針 INPUTが成されている。

-9-

参考：11月末 現在・対応状況

次期国内が伴・商品への影響

		狙い	11/31時点での実状	
脅威 ↓ 阻止	Tokyo2020 アクセ・ガイドの適用 (オリパラ基準)	■多機能トイレへの Tokyo2020アクセ・ガイドの各種寸法記載を排除	○	「多機能トイレ」が著しくサイズ拡大となる、Tokyo2020アクセ・ガイドには準拠しない方向
	機能分散化に対する要望	■	○	本オスト器具は一般便房に機能分散化の方向
機会	付帯機器の拡販	■機能分散化による 男女別トイレへの ベビー配慮展開	○	ベビー配慮は男女別トイレに機能分散化の方向
		■小規模物件への BF化展開	○	小規模物件の図示掲載

国交省への、各メーカー提言活動と合わせ、工業会からも提言活動を継続。

3. 今後の活動計画

高齢化・国際化に伴うUDに係る事業の推進

●業界横串のアクセシブルデザイン標準化推進活動

UDにかかわる国内・国際規格(JIS・ISO)について、原案作成検討委員会等へ協力し、工業会内、参画企業内に情報を展開し、意見の集約を行い、必要に応じ検討委員会等への提言。

●法令改訂・ガイドライン改訂への提言活動

UDにかかわる国内法令等の改訂に対し情報収集を行い、レストルーム空間UD視点で工業会内、参画企業内に情報を展開し、意見の集約を行い、必要に応じ検討委員会等への提言。

●住宅・パブリックトイレ空間の UD化に関する課題検討と提案活動

- ①住宅トイレに関するUD視点での新しい価値の検討
 - ・UD視点での新しい価値につき、ホームページを活用した情報発信等の検討を行う。
- ②公共トイレの使い方啓発活動
 - ・公共トイレにおいての多様な利用者の円滑な利用に配慮したユニバーサルなトイレ整備について検討し、UD市場の認知拡大をめざす。



以上